

令和3年度 事業報告

令和3年度は3つの経営課題である『持続可能な収支バランス、人材確保等によるサービスの質向上、社会変化への対応』の実施に加えて、広域的な地域包括ケアシステム構築の推進に取り組みましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、患者・利用者や医療・福祉施設・教育にも様々な制限が生じ、運営面と財務面に大きな影響を受けました。

法人全体としては新型コロナウイルス感染に対して慎重な運営を継続し、ゾーニングやスクリーニングの強化により病棟や福祉施設での受け入れが制限されたほか、患者、職員、職員家族の感染により、稼働に影響を受けました。

一方で、地域の住民の皆様の医療と福祉を守るため、ワクチン接種を積極的に協力したほか、地域包括ケア病棟が地域包括ケアシステムの中心として医療と介護の切れ目のないサービス提供に大きく貢献し、光の家療育センターでは継続的な事業実施体制を強化するために、非常用自家発電設備の稼働時間延長工事を実施いたしました。

以上、令和3年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染予防と地域包括ケアシステム構築の更なる推進を行った年といえます。そして、令和4年度は第六期長期総合計画『飛翔』の最終年度であり、次期長期総合計画『挑戦』の作成に向けた重要な年度であると共に、創立130周年となる記念の年となります。医療と福祉が融合した理想郷の実現に向け、引き続き地域包括ケアシステムの推進に取り組み、様々な人や施設と手を取り合い、システムの強化を行っていきます。

結びに、埼玉医療福祉会は基本理念と基本方針、役割、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」を実践することにより、医療福祉サービスの質の向上を図り、地域福祉の充実に貢献するとともに、高い公共性と倫理性をもって、安心した働きやすい職場づくりと適正かつ活力ある法人運営に努めてまいります。

1. 基本理念

『限りなき愛』

《ミッション》

Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS

2. 基本方針

- ① すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
- ② 安全で質の高い医療・福祉を実践します。
- ③ 地域の医療・保健・福祉機関との連携を密にします。
- ④ 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
- ⑤ 埼玉医科大学病院群との連携を密にし、第4病院としての使命・質の向上を図ります。

3. 役割

- ① 地域包括ケアシステムの中核的病院・福祉施設としての役割
- ② 埼玉医科大学病院群の第4病院としての役割
- ③ 福祉施設の関連病院としての役割
- ④ 行政の委託機関としての役割
- ⑤ 実習施設としての役割

法人部門

1. 運営実施状況について

① 顧客の視点

- ・新型コロナワクチンの接種を自治体と協働して実施し、地域住民が安心した日常が送れるよう、地域を支える医療機関としての役割を果たした。
- ・創立 130 周年を迎えるにあたり、事業継続の基盤となる人材確保事業等を財務面から支援するため、新たな積立資産の運用を開始し、運用による奨学金を活用して介護人材養成校との連携協定を締結した。

② 業務プロセスの視点

- ・AI、ロボット、IoT 等を活用・推進し、職場内オンライン会議、オンライン面会、オンライン診療、AI によるケアプラン作成支援を開始し、ナーシングヴィラ本郷における睡眠センサー利用拡大など、業務効率化と同時にサービスの質向上に取り組んだ。
- ・ケアワーカー、療育員を中心とした採用活動に取り組み、求職者に対して職場紹介動画を作成・公開し、職場の魅力発信に努めた。

③ 財務の視点

- ・新型コロナウイルス支援金に関わる適切性の検証と情報を共有し、財源を確保した。
- ・令和 4 年 4 月看護要員配置基準と配置状況、必要人員数の策定、適正な人員配置及び人件費を精査し、経営判断の指標として活用した。
- ・介護職員処遇改善加算金の各事業所からの配分案を取りまとめ、遅滞なく行った一方、令和 4 年度処遇改善計画書及び新設の特定処遇改善計画書を策定し、4 月に行政に提出する。

④ 学習と成長の視点

- ・介護職員の採用・定着・育成及び介護福祉士取得の促進を目的に介護福祉士養成実務者研修を開講し、16 名が受験し、13 名合格した。
- ・各種研修会のオンライン化を推進し、新型コロナウイルス感染拡大による制限がある中でも E ラーニングや、オンライン等により研修が実施できるよう、研修体制を強化し、職員の学習と成長の機会を確保した。

丸木記念福祉メディカルセンター

1. 精神科部門

新型コロナウイルス感染が拡大する中、スクリーニングを強化して感染予防を徹底すると共に、長期入院者の退院支援に取り組みその実績が評価された。また、高齢社会の進展による認知症患者の増加、精神科長期入院患者の高齢化に対して、精神科に関わる個々のスタッフが尽力し、入院患者の適切な体調管理、入院患者の確保に取り組んだ。地域連携業務として、一般住民や専門職向けに主催研修会や講師派遣を 24 回(うち認知症サポーター養成講座が 9 回)実施した。

次年度も精神科一同気を引き締めて地域の精神科医療の要としての使命を果たしていく。

2. 一般科部門

令和 3 年度も安心・安全で満足度の高い思いやりある医療の提供ができ、入退院の迅速化と病態の変化に応じて各病棟と適切な連携を行うことができた。埼玉医科大学グループの第 4 病院として、後方的な役割を担うと共に、関係部署や関連施設との連携強化を図り、広域的な地域包括ケアシステムの発展に貢献することで、地域包括ケア病棟の機能が向上した。更なる入退院先との連携強化による質の高いサービス提供を目的として、入退院支援室の開設準備に取り組んだ。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により一時、新規患者の受け入れが制限されるなどの影響が出るも、感染対策の徹底、部署間の連携、埼玉医科大学グループの協力により、感染発生時の制限期間を短縮することができたほか、タブレットを使用した遠隔診療や、オンライン面会の実施など、新型コロナウイルス感染拡大による制限がある中でも、ICT 機器を導入してサービスの質向上にも取り組んだ。

3. 介護老人保健施設薫風園等

令和 3 年度も、薫風園施設としての役割を果たすべく、法人の基本理念・基本方針・役割・法人全体の事業計画を踏まえ、各種事業を展開した。

感染症対策による面会制限が継続する中、オンライン面会を開始したことにより、利用者家族の満足度が向上した。介護報酬改定により入退所前訪問、リハマネ等の加算を取得し、今後は科学的介護推進加算の取得準備を進める。

介護老人保健施設等の稼働向上を目標に、地域のケアマネジャーとの信頼関係構築に取り組むほか、映像資料などの活用や広告掲載により、稼働率が向上している。今後も職員間でのアイデアの共有や広報活動の強化による利用者の確保、更には地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・生活支援・介護予防等、当法人の特徴や強みを生かし、各種サービスの提供と質の向上に取り組む。

4. 暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館

暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館は増加する在宅療養支援診療所への需要に対応するため、訪問診療医を5人体制に拡充した。

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しつつ、新型コロナウイルスワクチン集団接種に取り組み、地域の皆様が安心して生活を送れるよう、地域を支える医療機関としての役割を果たすと共に、在宅医療の普及啓発として、在宅医療のチラシ及びリーフレットを配布し、認知度の向上に取り組んだ。ICT を活用したオンライン診療の開始や AI(ケアプラン作成支援)、連携アプリ等を活用し、効率的・効果的な業務に取り組んだ。

引き続き、グループの構想である「医療と福祉の理想郷」の実現、広域的な地域包括ケアシステムの前線的な役割を担えるよう、スタッフ一丸となり取り組んでいく。

5. 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷

令和3年度も法人の理念である「限りなき愛」、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」に基づき、「ご利用者・ご家族・地域社会から信頼され、安心してご利用いただける施設」を目指し、職員一丸となって介護サービスの提供に努めた。

新型コロナウイルス感染症への各種対策により、利用者から感染者を出すことなく経過し、ご利用者に安心して生活と支援を提供することができた。ロボットや ICT を活用した介護に取り組み、睡眠センサーやインカムを導入し、生産性の向上を図り、職員の夜勤負担軽減及び、利用者の事故防止策の強化を行った。引き続き施設の使命を果たせるよう感染対策や業務改善に取り組む。

6. 地域活動支援センターのぞみ

令和3年度は、第6期長期総合計画「飛翔」の4年目の年であり、「医療と福祉が融合した理想郷」実現に向けて業務を行ってきた。また、事業計画・基本方針を踏まえた当センターの役割を果たすべく尽力した。

今後もスタッフの資質向上に努め、情報発信や、家族会、他機関に対しての講演会の開催などの障害福祉に関する普及啓発活動を、感染症対策を徹底した状況下で実施し、地域の福祉施設としての役割を果たしていく。

7. 障害者自立支援施設やすらぎ・グループホームいこい

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大予防による感染防止策の徹底と共に、宿泊型自立支援と生活訓練、グループホーム事業の収支を安定させることを目標として事業に取り組み、入所までの待機期間を短縮し、利用申し込みを早期に対応するとともに、稼働率向上に努めた。

引き続き、職員一丸となって利用者獲得のために各施設との連携の強化、広報活動に取り組み、職員のスキルアップによる業務の効率化に努める。

8. 毛呂山町老人福祉センター山根荘

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による休館等が発生するも、利用者数が6,140名(前年度比:+3,281)、一日平均26名(前年度比:+4)と増加した。感染対策として導入した感知式サーモグラフィや、飛沫防止対策用品に加え、CO2排出量センサーを主要設備に設置し、安全に利用できる環境を整え、利用に際しては感染防止策を行った上でのサービス提供や、館内環境の改善を行い、地域住民が健やかに暮らす一助になれるよう取り組んだ。

光の家療育センター

光の家は開設55年を迎え、入所利用者が年々高齢重度化していく中、職員の看護・介護負担が増大している。それに加え、少子高齢化の影響で働く職員の確保が困難な状況である。これらに対応する為、職場環境改善、職員育成支援、オール埼玉医大での求人活動に尽力した。

その結果、職員負担の軽減やモチベーションアップにつながり、運営面では各リーダーと現状を共有し、入所者を積極的に受入れたことで年間の稼働率が98%を維持することができた。また、年度後半より利用者ニーズに応える為に、短期入所を感染対策に努めながら再開した。

令和3年度も感染防止を最優先・最重要事項として取り組み、年間を通じてワクチン接種を積極的に行い、入所者・職員へのワクチン接種率はほぼ100%となった。停電時における人工呼吸器等の医療機器の使用時間延長を目的に、自家発電機を埼玉県施設整備事業補助金により更新した。

地域貢献活動としてワンダーハウスでは「障害者アート in おごせ」を実施し、障害のある方の作品を展示した。3日間で236名の来場があり、来場できない方を対象にリモートでの中継も行った。

看護専門学校

令和3年度については、より優秀な学生確保のため、募集活動等を主要課題としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により学生募集活動が限定的になった。

「高等教育の修学支援新制度」については、対象学生に対して支援を実施した。

日常の学校教育については、学生一人ひとりの特性を尊重し学習の支援を行い、専門知識や技術習得を学ぶだけでなく、社会人としての教養と豊かな人間性、専門職業人としての倫理観の育成を目指し、学生支援を行う事などを教育の基本方針として実践した。

学生確保

- ・教職員・学生による学校訪問・母校訪問は中止したものの、採用担当職員が埼玉県内の高校47校の進路担当教員にアプローチした。学校説明会は、参加人数を制限し、感染対策を実施した上で年間7回開催した。
- ・令和3年6月、「高等教育修学支援新制度」の更新申請を実施した。

入学試験実施状況

- ・令和 4 年度入学試験として学校推薦・社会人選抜・一般選抜 I 期・II 期を実施。(志願者 146 名、受験者 139 名、合格者 94 名、入学者 81 名)

学生指導・国試指導

- ・一年次から計画的に国試受験対策を実施している。特に最終学年においては模擬試験の回数を増やし、その成績結果を個別指導強化に活用した。
- ・令和 4 年 2 月 13 日に第 111 回看護師国家試験が実施され、新卒合格率が 89.7%であった。今後も学生指導に力を入れていく。

就職支援(新卒国試合格者)

- ・看護師国家試験合格者の進路は、合格者 70 名、内 65 名 92.9%の学生が埼玉医科大学グループ内の関連病院に就職した。今後もグループ内の看護師安定供給に尽力する。